

集 会 決 議

自衛隊と米軍による日米共同統合演習が 10 月 26 日から全国で始まった。今回の演習は武力攻撃事態などを想定した「キーン・ソート」の一環で自衛隊は約 37,000 人、米軍は約 9,000 人が参加する大規模訓練であると同時に、初めて宇宙状況監視やサイバー攻撃、電子戦に備えた対処訓練が加わっている。

とりわけ鹿児島県の無人島臥蛇島での日米訓練は初めてであり「島しよ」防衛を目的に実施されている、自衛隊からは水陸機動団など 100 人と米海兵隊 40 人が参加し臥蛇島周辺の艦艇から隊員をオスプレイや自衛隊ヘリを使って、島に降下させる訓練や上陸後に空砲による戦闘訓練を行っている。まさに尖閣諸島を想定した訓練であり、中国を牽制する狙いがあることは明々白々である、このことは北東アジアの平和構築にとって百害あって一利なしの訓練であると言わざるを得ない。

更に訓練期間中自衛隊鹿屋基地に駐留し拠点行動するオスプレイ 4 機は、整備や補給のためと言われているが、大隅半島の上空を我が物顔で飛行する実態は将来を見越した地ならしに他ならない。

このほか種子島の長浜海岸や旧種子島空港での訓練、宮崎県新田原基地を拠点に米軍の F15 戦闘機 12 機が自衛隊機と共に戦闘訓練を行っている。

このように沖縄から南西諸島、薩南諸島へかけて日米の軍事訓練が強行実施されたが、これは始まりであり今後日米の軍事訓練が身近なこの地域で頻繁に行われてくることは必至である。

今回、私たちが暮らす生活空間で平和で安心・安全な毎日が根底から覆されようとしているこの事態を断じて許すわけにいかない、戦争は二度と起こしてはならないと誓った平和憲法を為政者に守らせる闘いを展開してきた私たちは、平和を願う多くの住民とともにこれからも粘りずよく闘い続けるものである。

以上決議する

2020 年 10 月 31 日

日米軍の臥蛇島訓練・馬毛島軍事基地化・

オスプレイ鹿屋基地運用・海兵隊員基地宿泊反対大隅地区集会